西濃農林事務所の普及活動状況（令和７年９月）

今月の重点活動

■普及活動　協同農業普及事業外部評価会の開催

９月１日、ＪＡにしみの神戸集出荷センターにおいて、岐阜県協同農業普及事業外部評価会が開催された。

農林事務所は、「みどり戦略に基づく葉物野菜産地の維持発展」の課題について、設定目標、活動内容及び実績について説明を行った後、小松菜の現地実証ほにおいて、耕種概要やこれまでの取り組みについて紹介を行った。

評価員からは多くの質問や意見をいただいたが、今後の評価結果を踏まえ、次年度の普及計画に活かしていく。

【外部評価会の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■営農組織　輪之内町松内地区営農組織の合併検討

８月28日、輪之内町役場において、松内地区営農組織等合併検討会議が開催された。地区内には農事組合法人２組織、任意組合１組織があり、今後の継続的な営農に向けた組織統合について、町、ぎふアグリチャレンジ支援センター、ＪＡにしみの、農林事務所が支援を行っている。

検討会では、合併統合方法を確認し、今後の新組織の体制・運営など詳細について協議していくことになり、まずは３組織で話し合いをし、その結果を関係機関を含めて検討していくことになった。

農林事務所では、関係機関と連携し、組織合併をすすめていく。

【検討会の様子】

■花き　フラワー・ブラボー・コンクール（ＦＢＣ）地方審査会の実施

９月10日、ＦＢＣ花壇の西濃・揖斐地域の地方審査会を実施した。

ＦＢＣは岐阜県から始まり、60年以上の歴史がある学校花壇コンクールで、応募のあった４校（西濃３、揖斐１）の審査を行った。

今年は梅雨明けが早く、その後晴天と高温が続いたため、潅水に多くの労力が必要となった。また、サルビア、マリーゴールドで生育不良が発生し、各学校とも苦労しながら花壇づくりに取り組んでいた。

審査の結果、養老町立養北小学校、揖斐川町立小島小学校の２校を中央審査対象校として推薦した。

花への関心を育む貴重な場であり、農林事務所は今後もサポートしていく。

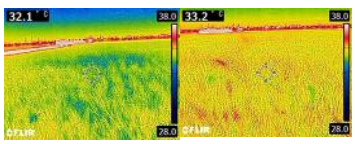
【花壇審査の様子】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■水稲　高温対策実証ほの効果検証

主食用米の中生品種「ほしじるし」では、出穂期の高温の影響で収量及び品質低下が課題となっている。そのため、養老町において土づくり資材（けい酸加里プレミア３４）を活用した実証ほを設置している。

出穂期にサーモカメラを用いて稲穂の温度を測定したところ、土づくり資材を基肥に増量した区と追肥を行った区では、慣行区より温度が低くなっていることが確認できた。



【稲穂温度 実証(左)と慣行(右)】

今後は、坪刈した玄米サンプルの評価・検証を踏まえ、高温対策の土づくり資材の施用指標を作成し、研修会で生産者へ情報提供していく。

■小麦　令和８年産栽培研修の実施

９月 22 日、海津市営農協議会主催の小麦栽培研究会が開催され、生産者及びＪＡ職員 35 名が参加した。

農林事務所から基本的な栽培技術の確認及び近年の気象傾向を踏まえた対策を説明し、赤かび病の適期防除の徹底を呼びかけた。また、近年問題となっている雑草対策について、防除薬剤の説明を行った。

一方、切り替えが検討されている減プラスチック型肥料については、今までの実証結果を説明し、令和８年産の現地試験について提案を行った。

【研究会の様子】

■なす　土壌病害対策を指導

９月 17 日、ＪＡにしみの海津中支店出荷場で、ＪＡにしみの海津茄子部会の研究会が開催された。

農林事務所からは、今年実施した土壌病害対策実証ほの結果を説明し、次作に向けた台木の選定や土づくりを進めることを指導した。また、還元土壌消毒や薬剤による土壌消毒を行ったほ場では、土壌病害の抑制効果が高かった半面、過去に青枯病が発生し、台木による対策ほ場では、猛暑の影響もあり、７月以降半身萎凋病や青枯病が多発する結果となった。

農林事務所は、なすの安定生産に向け支援をしていく。

【研究会の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■冬春トマト　天敵タバコカスミカメを放飼

９月 12 日、海津トマト部会の実証生産者のほ場において、コナジラミ類の天敵である「タバコカスミカメ（商品名：バコトップ）」を放飼した。

海津地域では、薬剤耐性をもったコナジラミ類が増加し、化学農薬による防除が難しくなっており、天敵や耕種的防除を活用したＩＰＭ体系の確立が求められている。

農林事務所では、実証ほ場の設置に向けた調整や天敵に影響の少ない農薬の助言を行い活動を支援している。

【天敵放飼の様子】

今後は、天敵の定着頭数やコナジラミ類の発生状況調査を行い、天敵を活用したコナジラミ類防除体系の確立を支援していく。

■きゅうり　抑制巡回・研究会の開催

ＪＡにしみの海津胡瓜部会は、９月２日、ＪＡにしみの海津中支店において抑制作型の巡回・研究会を開催した。

種苗会社からは、巡回ほ場の生育状況や他地域状況を踏まえ、抑制栽培品種「まりん」及び「７１９」の栽培管理法について説明が行われた。

農林事務所からは、現状の気象状況（長期高温）、遮光剤や遮熱剤の実証経過、新農薬情報、病害虫対策、農薬・肥料の使用実態について説明するとともに、ぎふ清流ＧＡＰの取組推進についても啓発を行った。

【ほ場巡回の様子】

令和８年産は高温対策として遮光する生産者が増加しているが、過度に遮光を続けると収量が低下するため、遅くとも主枝の摘芯頃までに、採光重視の管理に切り替えるよう、注意喚起していく。